



インターネットでの情報提供	
提供予定日	6月9日

平成23年6月8日(水) 県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当	担当者	電話番号
農産園芸課	水田農業担当	宮田 和也	(直通)058-272-8436 (内線)2862

## 集落営農支援チームとサポーターの派遣について

～ 小規模・高齢化集落における集落営農の組織化を推進～

本県の中山間地域においては、農業の担い手がない小規模・高齢化集落（農家戸数19戸以下で農家人口の高齢化率（65歳以上の割合）が50%以上）が110集落あり、これら集落の農業が将来にわたり継続されるためには、共同で農作業等を行う集落営農の組織化を推進することが必要となっております。

そこで、県では、本年度新たにこれらの地域から5カ所をモデル集落として選定し、県職員で編成する「集落営農組織化支援チーム」を派遣し、集落営農の組織化のための助言、提案を行うとともに、都市部や周辺地域の就農希望者等から採用した「集落営農サポーター」を派遣し集落営農を担う人材として育成を図ることとしております。

この度、揖斐、可茂、東濃地域のモデル集落において設置された「集落営農組織化委員会」からの要請に基づき「集落営農組織化支援チーム」の編成を決定するとともに、3名の「集落営農サポーター」も決定し、組織化支援に向けた派遣活動を開始します。

### 1. 派遣を行うモデル集落（詳細別紙）

- ・揖斐地域：揖斐川町坂内<sup>ひろせひろにし</sup>広瀬<sup>ひろせ</sup>西集落
- ・可茂地域：白川町下<sup>しもさみむろやま</sup>佐見<sup>さけみ</sup>山集落
- ・東濃地域：土岐市鶴<sup>つるさと</sup>里<sup>かきのにし</sup>町柿野<sup>かきののし</sup>西<sup>にし</sup>町集落

### 2. 「集落営農組織化委員会」について

- ・集落営農の組織化を検討する主体で、地域住民、市町村、JA、県農林事務所の職員で構成

### 3. 「集落営農組織化支援チーム」について

- ・県関係機関職員（県庁関係課職員、関係農林事務所普及指導員）で編成
- ・集落営農の組織化に関する情報提供や課題解決に向けた助言、提案などを実施

### 4. 「集落営農サポーター」の派遣について

- ・集落営農サポーターは、集落活動（集落での組織化に向けた実態調査や意向把握を行う他、祭りなどの各種集落行事へも参加）や農作業（高齢者等の農作業のお手伝い、篤農家からの農作業指導等）を実践し、地域農業への理解を深め、地域の信頼を獲得するとともに農業技術の習得を図る。

集落営農サポーターの派遣は、緊急雇用創出事業を活用し、岐阜大学へ委託し実施。岐阜大学は、地域組織（JA、地域担い手協議会など）と連携し、サポーターの派遣を行うとともに、サポーターと連携した調査・分析活動により組織化の検証や組織化マニュアルを作成

岐阜地域（本巣市根尾能<sup>のうごう</sup>郷集落）、飛騨地域（飛騨市河合月ヶ瀬<sup>つきがせ</sup>集落）においても派遣を行う予定で、現在、集落営農サポーターを公募中。

（公募に関する問い合わせ先：岐阜県農政部農産園芸課水田農業担当 TEL058-272-8436）

(別紙)

## モデル集落の概要と派遣するサポーター

### 【揖斐地域：揖斐川町坂内広瀬広西集落】

- ・農家戸数11戸、耕地面積10ha(水田8ha、畑2ha)、耕作放棄地面積0.9ha
- ・圃場整備が概ね実施されているが、急傾斜地に広がる水田が多く、サルやイノシシによる鳥獣被害も増加するなど、生産条件は悪い。
- ・草刈り等による保全管理の他、昨年から一部耕作放棄地にそばを作付するなど水田が荒れない努力をしているものの、今後耕作放棄地が増加することが懸念される。
- ・近隣集落との連携や坂内地区全体での組織化も視野に集落営農の組織化を検討。

#### <派遣するサポーター>

- ・27歳、男性（岐阜県本巣市出身）
- ・家族が農業関連の仕事に従事しており、以前から強い就農意向があった。
- ・農業資材販売店での勤務経験があるが、農業従事経験はない。
- ・将来的に、就農と農村集落への移住希望もあり、サポーター活動を通じ実践的な農業を学びたいとの思いから応募。

### 【可茂地域：白川町下佐見室山集落】

- ・農家戸数6戸、耕地面積5ha(水田2ha、畑1ha、樹園地2ha)、耕作放棄地面積0ha
- ・急傾斜地の棚田地域で圃場整備が未実施の水田が多く、機械化に支障をきたす水田もあるなど生産基盤条件は極めて悪く、サルやイノシシ、シカによる鳥獣被害も多い。
- ・農業生産は米や町特産の茶の他、近年、榊（主に神事などに用いられる枝もの）や南天が試験的に生産されているが、営農条件が厳しく収益性は低い。
- ・草刈り等による保全管理で水田が荒れない努力をしているものの、保全管理水田は2割を越え、耕作放棄地の発生が懸念される。
- ・収益性の高い品目の導入や、棚田景観を生かしたグリーン・ツーリズム、有機農業などの新たな共同取り組みの検討や、近隣集落と連携した組織化を検討。

#### <派遣するサポーター>

- ・38歳、男性（愛知県名古屋市出身）
- ・地方公共団体での勤務やアメリカ留学を経て、日本農業の衰退に危機感を覚え就農を決意。
- ・農業従事経験がないことから、農家での研修を受けるなど現在就農に向けた準備中。
- ・自然を守る農村の過疎化に胸を痛めており、農業・農村の改革に協力したいとの思いからサポーターに応募。

### 【東濃地域：土岐市鶴里町柿野西町集落】

- ・農家戸数13戸、耕地面積5ha(水田4ha、畑1ha)、耕作放棄地面積0.8ha
- ・圃場整備の実施が昭和40年代と古いことから、圃場区画は小さく、圃場への進入路も狭いなど、生産基盤条件は悪い。
- ・10年程前までは、担い手農家が作業を受託する体制があったが、担い手農家の高齢化に伴い受託が困難となり、イノシシによる鳥獣被害も多い中、耕作放棄地の増加が懸念される。
- ・こうした状況は鶴里町柿野地区全域で同様であり、近隣集落と連携した耕作放棄地の解消取り組みや組織化を検討。

#### <派遣するサポーター>

- ・56歳、男性（瑞浪市出身）
- ・農業関係団体に勤務していた経験があり。
- ・地域農業の衰退に危機感をいだいており、なんとか地域農業を再生させたいとの強い思いからサポーターに応募。

## 集落営農組織化支援チームの構成員

各集落の課題に対応し、関連する所属の技術課長補佐以下の若手職員で編成する

所 属	担 当	揖斐	可茂	東濃
農政部農産園芸課水田農業担当	総括、戸別所得補償制度、集落営農組織化支援			
農政部農産園芸課クリーン農業担当	有機農業等			
農政部農業経営課就農支援担当	新規就農支援			
農政部農村振興課農村支援担当	鳥獣被害対策、耕作放棄地対策			
農政部農村振興課農村企画担当	グリーン・ツーリズム			
農政部農業経営課技術支援担当	農業経営、新規作物導入			
農林事務所農業普及課(普及指導員)	全般(コーディネート)			

### < 参考 >

中山間地域の実態		
項 目	県全体	中山間地域
農業集落数	3,103	1,848
内小規模・高齢化集落	147	126
農家人口の高齢化率	48%	57%
耕作放棄地の増加面積	1,688 ha	1,115 ha

→ うち担い手がない集落数  
110集落

農家人口(農家を構成する世帯員の総数)のうち、65歳以上の割合  
(出典:「2010年岐阜県の年齢別推計人口」(岐阜県統計課))  
2000年から2010年の増加数(出典:農林業センサス)  
中山間地域の小規模・高齢化集落の営農実態は以下のとおり  
平均農家戸数:9戸 高齢化率:59% 平均耕地面積:6.7ha

### 集落営農の組織化について

集落営農組織とは・・・

地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が共同で農業生産を行う組織。共同で農業機械を所有したり、農作業や販売を共同で行うなど、地域の実情に応じ共同化の取組は多様。

集落営農組織数:県内に343組織あり、そのうち中山間地域には153組織ある。

水稲作付面積カバー率:中山間地域では10.6%と県全体の15.1%に比べ低い現状。